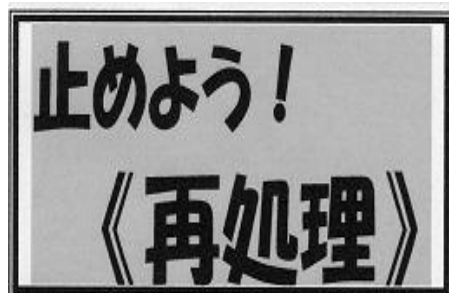


三陸の海を
放射能から守る岩手の会
ミニコミ通信
第6号 再訂版

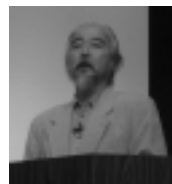


2005(平成17)年
9月21日
編集事務局
S.Oshida
電話・ファックス
019-623-1636

日本人の食料の宝庫 三陸の海を守れ!

三陸の漁業者と消費者が結集

宮古会場300人・気仙会場90人



《天恵の海》
を守ろう
水口憲哉先生熱弁

「三陸の海を放射能から守ろう!三陸リレー講演会」は宮古約三百人、気仙約九十人を集め開催されました。

水口教授は、「再処理工場は、原発とも違い、放射能廃液を排出することを前提として作られ、廃液は確実に三陸の海に流れてくる。原発や火力発電を置かずに、安全な海の幸を届けて来た三陸の海は益々大切な国民的な漁場だ。今なら間に合う、みんなの力で、再処理工場をストップさせ、三陸の海を守ろう」と訴えました。

会場には、各漁協や、地域生協からの参加者や、市町村議員、自然保護団体、教員組合、一般市民などが詰めかけ熱心に講演を聴いていました。
久慈地区では学習会が開催され、一九人が集まりました。

手作りの講演会が成功

宮古講演会

九月一日、午後六時半、会場の宮古市民文化会館には山田や田老など各漁協からマイクロバスで駆けつけるなど、漁業者や消費者が続々と集まり、中ホールはほぼ満杯となりました。

田村剛一代表は、「まず事実を知るために、五月以来手作りの講演会を準備して来ました。沢山集まって頂き感謝します」と挨拶しました。

講演は、プレゼンテーションソフトを使って、詳細な資料をスクリーンに映し出して、わかりやすく丁寧に行われました。

集会終了後のアンケート用紙は一九二枚も回収され、ほとんどが水口先生の訴えに共感し、海を守るためにどうするべきか考えようという内容でした。

例えば次のような感想が寄せられました。

「自分の仕事が海なので次の世代までこの海を守りたい」(四〇代男性)
「身近な海が危険にさらされようとしていることを知りました。情報を知る大切な機会に

なりました。」(二〇代女性)

「原子力発電所と再処理工場の違いを知りました。三陸の海は絶対に守ろう」(七〇代女性)

三十年前
広田湾を守っていて良かった

気仙地区講演会

二日、陸前高田市ふれあいセンターでは、集會に先立って、水口先生を囲んで、三十年前、広田湾埋め立て反対運動を闘った人々による座談会が行われました。



座談会では「あのとき、火力発電所の設立を許していれば、今では全国一の銘柄に成長した『広田湾の養殖力キ』はなかった。海を一カ所でも汚すと、次々に漁場は衰退してゆく。あの時阻止して本当に良かった」

と話しあいました。

六時半から、和室に約九〇人が集まり講演会が始まりました。

千田勝治代表から、「私たちは三〇年前広田湾埋め立てに反対し勝利した経験を持っています。今回も必ず海を守ります。」



しよう」と挨拶しました。

水口先生は、講演の終わりに「弁慶を倒した千本の矢」の昔話をされました。多くの人が、再処理反対の「批判の矢（声）」を放ち続けるならば、千本目の誰かの放った矢で、「再処理」という怪物も、何時かパタリと倒れるだろう。一人一人声をあげよう」と話されました。

参加者の中から、「水口先生の資料を使った分かりますか」という発言があります。という発言がありました。

八月三十一日、久慈地区でも水口先生を囲んで学習会が開催され、様々な意見が交換されました。次回にはぜひ講演会として開催したいという発言が相次ぎました。

水口教授講演の要旨

県漁連通信「羅針盤」で訴えたこと

私は岩手県漁連情報「羅針盤」に「そこにある深刻な危機——知らないうちに海洋汚染は進んでいるかも」という文章を書いた。青森県では核施設反対の参議院議員が誕生したほど運動が盛り上がったのに、県境を越えた岩手にはそのニュースが充分報道されなかった。

又、「アスベスト事件」から連想される恐ろしさ」という記事も最近書いたが、石綿の危険性はずうと昔から分かっていた。それなのに使用を止めず、十分な対策が取られないまま、現在になつて死者が続出している。統計を見ると、石綿

輸入量の増加曲線と、三〇年後の今の死者の増加曲線とは不気味に一致した平行線を描いている。

六ヶ所の「放流管」の意味すること

六ヶ所再処理工場の放流管は長さ三キロ。イギリスのセラフィールドの二・五キロよりちよつと長い。水深四四メートルの海底から人口放射能廃液が太平洋に流される。フランスのラ・アークの排水口の廃液を採取して調べたら自然放射能の一七〇〇万倍の放射能であつた。再処理工場は、原発と違つて、放射能廃液の排出を前提としてしか設計出来ない。

「県境」を越える放射能廃液

英仏の廃液は海流に乗つてノルウェーまで流れロプスターや海藻の放射能汚染が大問題となつた。二〇〇二年ノルウェーで開催された北海保護国際会議に出席したイギリス環境大臣は、ノルウェー首相から、テレビによる公開抗議を受けるといふ事件もあつた。

六ヶ所の廃液は、国境どころか岩手県境を越えて流れ着く。放射能の廃液は、三陸の海底各地に「ホット・スポット」（廃液のよごみ）を作つて、害をもたらすだろう。

水産物被害の実例

一九八一年四月に起こつた敦賀原発放射能洩れ事故では、名古屋の魚市場で福井県の水産物の取り扱い中止という事態を引き起こした。敦賀湾のホンダワラのコバルト60が予想値の四五倍もあつたことが公表され、湾産の魚介類・ワカメなどの買い控え、入荷拒否が起こつたのである。その実害約一四〇億円と計算されている。これは、報道の仕方に問題があつたと言うよりも、一旦放射能漏れの事実が起こると、経済的にも大きな悪影響をもたらすといふことを示している。

三陸の海を守れ！ 鈴木甚左衛門岩手県漁連会長の発言

その頃はちょうど鈴木善幸内閣時代であつた

が、当時、岩手県漁連会長であつた鈴木甚左衛門氏は漁村文化協会発行の「漁村」という雑誌に巻頭言を寄せ、「養殖漁場や磯資源に恵まれた沿岸周辺地域に対しては港湾埋立や電源立地は原則として避けるべきだ」と訴えている。豊かな三陸の海を守り続けてきた伝統は生きている。

六ヶ所の再処理工場のストップは可能である。三陸の漁業者と全国の消費者が力を合わせれば、お金の力に頼る核再処理推進勢力を阻止出来る。

三陸の海を守りきつたとき、三陸の海の幸は、日本人の安全な食品として、全国市場に名声をはせる。

一人一人が創意工夫して、「止めよう！再処理」の声をあげよう。

(まとめ・尚)

協賛・後援お礼

宮古・気仙実行委員会

協賛

宮古漁業協同組合・山田湾漁業協同組合・田老町漁業協同

組合・小浜漁業協同組合・重茂漁業協同組合・大沢漁業協同組合・船越湾漁業協同組合・大浦漁業協同組合・織笠漁業協同組合・田野畑村漁業協同組合・大船渡市漁業協同組合・綾里漁業協同組合・越喜来漁業協同組合・吉浜漁業協同組合・広田湾漁業協同組合・新日本婦人の会・陸前高田支部・八木澤商店・いわて生活協同組合・マリノア・DORA平和環境宮古地方労働組合・セクター・岩手県教職員組合・閉伊支部・岩手県高等学校教職員組合・宮古支部・気仙支部

後援

大船渡自然保護官事務所・陸前高田市・いわて生活協同組合・いわて生活協同組合・けせんコープ・岩手県漁業士大船渡支部・岩手県教職員組合・気仙支部・大船渡青年会議所・陸前高田青年会議所・陸前高田市地域女性団体協議会・自然ネット三陸・東海新報社・めぐみ豊かな気仙川と広田湾を守る地域住民の会・NPO法人いわてマリノフィ

ルド・白本野鳥の会・宮古支部・岩手日報社・岩手東海新聞社・朝日新聞東京本社盛岡総局・宮古民友社・BBC・岩手放送テレビ・岩手めんこいテレビ・岩手朝日テレビ・河北新報・アスの風